

「ダビデの子についての問答」

2015年11月28日

ルカによる福音書 20章 41節～44節 イエスは彼らに言われた。「どうして人々は、『メシアはダビデの子だ』と言うのか。ダビデ自身が詩編の中で言っている。『主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着きなさい。わたしがあなたの敵を／あなたの足台とするときまで」と。』このようにダビデがメシアを主と呼んでいるのに、どうしてメシアがダビデの子なのか。」

上記の問答は、主イエスご自身が語られたものではないだろう。マタイ福音書、マルコ福音書に並行記事があるので、福音書記者たちが主イエスは誰であるかを表すために書いたものと思われる。彼らは主イエスがメシア（キリスト・救い主）であると著したい一心で、そこに全力を注いでいる。

当時、ローマ帝国の属国とされていたユダヤ人はメシアを現実的な救世主として求め、そのメシアはダビデの子孫から現れると信じていた。ろばの子に乗ってエルサレムに入城した時、民衆は「ダビデの子にホサナ」と歓喜して、迎えている。主イエスにメシアを期待して「ダビデの子」と呼んだのである。ダビデはイスラエルの歴史の中で最も隆盛を極めた王で、神から遣わされるメシアはダビデの血筋を引き、ダビデのような力ある方であると信じていたからである。

この信仰に関し、主イエスは民衆に向かって「どうして人々は、『メシアはダビデの子だ』と言うのか」と問いかけ、メシアはダビデの子ではないと言っている。「ダビデ自身が詩編の中で言っている。『主は、わたしの主にお告げになった。「わたしの右の座に着きなさい。わたしがあなたの敵を／あなたの足台とするときまで」と。』このようにダビデがメシアを主と呼んでいるのに、どうしてメシアがダビデの子なのか。」

詩編の言葉は 110編 1節の「わが主に賜った主の御言葉。『わたしの右の座に就くがよい。わたしはあなたの敵をあなたの足台としよう』」である。この言葉は、王の即位式の時、王は神の右に座し、敵を足台とする、即ち、敵をことごとく征服する強い王であると、王をほめたたえた言葉である。主イエスは「主は、わたしの主にお告げになった」を「神は、ダビデのメシアにお告げになった」と読んでいる。ダビデはメシアを「わたしの主」と呼んでいるから、メシアはダビデの子ではないと言っている。

福音書記者たちは、この問答を書いて、メシアはダビデの子ではなく、ダビデが「わたしの主」と呼ぶほど、質を異にする真に力ある方である。そして、主イエスは真に力あるメシア（キリスト・救い主）であると告知している。

使徒言行録 2章に、聖霊降臨日にペトロが語った説教を書いている。ペトロは、ダビデは死んで葬られ、墓もあるが、主イエスは復活された。死から復活した主イエスこそがメシアであると、ダビデと主イエスの決定的な違いを語っている。

また、パウロはコリント書（一）15章の復活に関する論述において「死は勝利にのみ込まれた。死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか」と書いている。主イエスの十字架と復活によって、罪と死は征服されたとキリストの勝利を高らかに宣言している。主イエスは人間ダビデとは違い、罪を赦し神と結び合い、死から復活の命へと、救いを与えてくださったのである。この主イエスをメシア・キリストと信じる信仰にキリスト教は立脚している。